

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34519

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03092

研究課題名(和文) リウマチ看護師の看護実践能力の検証とセルフケア支援促進プログラムの構築

研究課題名(英文) Verification of Core Competencies of Rheumatology Nurse Practice and Construction of Self-care Support Promotion Program

研究代表者

神崎 初美 (Kanzaki, Hatsumi)

兵庫医科大学・看護学部・教授

研究者番号：80295774

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,900,000円

研究成果の概要(和文)：研究1：「RA看護師の看護実践能力尺度(神崎ら, 2017)」により外来と病棟看護の比較をした。外来では口や足のフィジカルアセスメントが不足、患者への説明や画像の把握、医師との連携は病棟より外来の方が行っていた。

研究2：フットケア支援能力を査定できる尺度を作成し41項目まで洗練した。

研究3：「関節リウマチ患者への看護リハビリテーション実施に関する実態調査」を実施した。50%以上が実施と回答したのは、「日常生活の困りごと相談」と「関節保護」の2項目だけで、理学療法・作業療法・装具自助具の提供・福祉制度に関する情報提供・栄養と調理に関する知識提供の5項目は、40%以上が実施していなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者のセルフケア支援、特に看護師が行う看護リハビリテーション(フットケアやマウスケアも含む)について、看護師の必要性認識が十分でないことが本研究の実態調査で明らかになった。したがって、看護師の必要性認識を高め、具体的実践に関する計画を実施していかなければならないことがわかった。病棟や外来での看護の特色や課題も把握できたため、それぞれに必要なリウマチ看護を明確にして看護師へ伝達していく必要がある。薬物治療を始めとする医療の進歩でリウマチ患者のQOLは向上しているものの出会う看護師の実践能力によって格差が生じることがないよう実践に生かせる研究を継続していく必要があると考える。

研究成果の概要(英文)：1: Comparison of outpatient and inpatient ward nursing was made by the "Core Competencies of Rheumatology Nurse Practice Scale (Kanzaki et al., 2017)" to identify the challenges of each. Physical assessment of the mouth and feet was lacking in the outpatient setting, and explanations to patients, understanding of X-ray images, and collaboration with physicians were performed more in the outpatient setting than in the ward. 2: A scale to assess foot care support competence was developed and refined to 41 items. 3: A "survey on the implementation of nursing rehabilitation for Rheumatoid Arthritis patients" was conducted. Five items (physical therapy, occupational therapy, provision of orthotic self-help devices, provision of information on welfare systems, and provision of knowledge on nutrition and cooking) were not implemented by more than 40% of the respondents.

研究分野：慢性看護

キーワード：看護リハビリテーション 関節リウマチ セルフケア 看護実践能力 Core Competency

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

関節リウマチ(以降、RA)治療において、2003年から生物学的製剤が保険適用となり、その即効性と持続性、関節の変形を防ぐことにおいて従来では望めなかった効果、つまり約50%の患者が「寛解(Remission)」できる(EmeryらによるCOMET試験,2008)というドラマティックな変化が起こっている。従って予後には希望が持てる上、患者の高いQOL維持、医療経済的には身障者認定や介護給付の回避が目指せる時代になっている。

しかし、RAの関節破壊は早期に起こるというエビデンスも明らかであり、発症2年以内にRAをコントロールすることが将来の変形を防ぐ上で最も重要(三浦,2010)となっている。さらに、治療効果の代償としてニューモチスティス肺炎・結核などの重篤感染症が起こり得る。総合的・包括的な慢性炎症性疾患の随伴病態として、加齢とは別に、RA(特にコントロール不良例)にサルコペニア、フレイルの病態が存在するためこれらの改善への介入(栄養・運動(リハビリ))の必要性や予防的介入がRA看護師の重要な役割となっている。

先行で開発したRA看護師の看護実践能力尺度の「セルフケアを支える力」因子は、フットケア・口腔ケア・リハビリテーションの3項目だが、この3項目だけで看護師のセルフケア支援の詳細を評価するのは不十分であると考えられる。RA患者は関節の変形に伴う足趾の変形、巻き爪、胼胝など足のトラブルを多く抱えている。RA患者外来では、糖尿病患者のようなフットケア診療報酬加算がなく、患者の状況を見かねてケアをしており、ケア指標が必要である。足爪異常や外反母趾などを有する者ほど転倒歴が多い(山下ら,2004)、足部のフットケア実施後、開眼片足立ち時間が増大する(山下ら,2005)、靴のインソール調整が高齢者のQOLを改善させる(Kusumoto et al,2007)ことがわかっている。従って、看護ケアの現場において、患者のフットケア支援とその評価基準を作成することが求められている。口腔ケアにおいても、RA患者は四肢機能の低下により口腔衛生管理が困難であることが多く、加えて薬物療法による有害事象として、口腔粘膜炎、歯肉出血、味覚障害を引き起こしやすい。口腔衛生管理には、唾液分泌促進のためのケアや、口腔カンジダ症の予防、口腔ケア習慣、食行動変容などが重要となる。しかしRA患者の口腔ケアの実態についてはこれまで明らかでない。さらに、RA患者の骨破壊は早期から起こっているというエビデンスの確立により患者への早期からの関節保護やリハビリ教育、具体的な生活指導など障害予防的リハビリテーションがより重要となっている。だが、RA領域に専門性の高い理学療法士も数少なく、看護師は患者への有効なリハビリを模索している現状がある。

このように、フットケア、口腔ケア、リハビリなど患者のセルフケア支援実践において看護の専門性を明確にする必要がある。

2. 研究の目的

研究目的:

研究1:「RA看護師の看護実践能力尺度(神崎ら,2017)」の反応性確認をする。

研究2:看護実践能力の「セルフケアを支える力」のうちフットケア支援能力を査定できる尺度を作成する。

研究3:看護実践能力の「セルフケアを支える力」のうち看護師が実践しているリハビリテーションの実態を把握し看護師が行えるリハビリテーションの範囲を検討する。

3. 研究の方法

研究 1：先の研究で開発した RA 看護師の看護実践能力尺度（神崎ら,2017）」を使い、看護師の実践に付いて分析する。

研究 2：1)リウマチ看護師のフットケア実践能力に関する専門性について、先行文献やテキスト、報告書からの記述内容を抽出する。2)リウマチ看護のエキスパートに項目の妥当性について聴取し項目を洗練する。3)選出した項目による Web 調査を実施する。

研究 3：1)看護リハビリテーションの範囲の明確化を目指し、「関節リウマチ患者への看護リハビリテーション実施に関する実態調査」を実施する。2)実態調査結果について討議し、看護リハビリテーションの範囲を明確にする。

4. 研究成果

研究 1：開発した尺度の反応性確認を実施した。外来看護師 166 人と病棟看護師 49 人の平均点を比較（t 検定）した。「薬剤について説明し、薬剤性の副作用への対処法について指導する（ $p<0.04$ ）」「医師に伝達が必要な内容について判断と対応ができる（ $p<0.01$ ）」「画像から身体状況を把握する（ $p<0.01$ ）」「医師と連携し情報共有する（ $p<0.01$ ）」「初診や予定外受診、療養上において、援助が必要な患者のトリアージをする（ $p<0.01$ ）」は外来看護師のほうが高かった。調査対象者である看護師は、日本リウマチ財団登録ケア看護師であり忙しい外来においても短時間で必要な専門的ケアを行なえるのだと思われる。「口のアセスメントと口腔ケアの方法と技術を知り実施する（ $p<0.01$ ）」「足のアセスメントとフットケアについてその方法と技術を知り実施する（ $p<0.02$ ）」は病棟看護師のほうが高かった。この理由としては、患者のフィジカルアセスメントについては、外来では実施しにくいと考えられ、病棟看護師の方が高かったと思われる。「関節リウマチの生活機能障害の程度を把握し患者固有の生活背景を聞く（ $r=0.13, p<0.04$ ）」「声のかけ方に工夫をし、言葉遣いに気をつける（ $r=0.13, p<0.04$ ）」「看護師どうし連携し情報共有する（ $r=0.13, p, 0.04$ ）」「医師と連携し情報共有する（ $r=0.14, p<0.03$ ）」「看護のできるリハビリ指導をする（ $r=0.14, p<0.03$ ）」の得点は RA 領域看護歴と相関が高かった。それは RA 患者をよく理解し、適切なケアができるからと考える。

研究 2：フットケア実践能力尺度に関して先行文献等から 104 項目抽出した。日本リウマチ看護のエキスパート 10 人への聴き取りとその後の討議により 104 項目から 47 項目とした。47 項目について、日本リウマチ学会が教育施設とする全国 654 施設を無作為抽出しその施設の看護師に対して Web 調査を実施した。回収途中だが 80 人集計したデータ結果を示す。5 段階 5 点満点で示される 47 項目の平均点は 2.96 で 2 点（ほとんど実施していない）台の項目が 8 つあった。それらは、巻き爪のケア・ハイアーチや扁平足への対応・自分でやる足のマッサージ方法の指導・靴のフィッティングのポイント指導・靴のサイズとインソール指導・靴の選び方や履き方・簡単なフットケア処置・裸足予防だった。これらは看護師が指導すべき内容であり習熟し実践する必要性があることがわかった。47 項目の各平均点から天井効果・床効果のある項目は見られないが更にデータ収集し分析を進め項目内容を決定する予定である。

研究 3：看護リハビリテーションの範囲を検討するため、「関節リウマチ患者への看護リハビリテーション実施に関する実態調査」を実施した。対象は、日本リウマチ看護学会に所属する会員 221 人で 89 人（40.3%）から回答を得た。看護師が関わる必要があると思う内容について全項目とも約 70%以上が回答した。しかし、臨床実践で RA 患者に関わる者の 50%以上が「よく実施できている」「やや実施できている」と回答したのは、「日

常生活の困りごと相談」と「関節保護」の 2 項目だけで、理学療法・作業療法・装具自助具の提供・福祉制度に関する情報提供・栄養と調理に関する知識提供の 5 項目については、「あまり実施していない」「実施していない」が 40%以上だった。COVID-19 禍の中でのリハビリテーションについて看護師は「よく関わっている」0%、「やや関わっている」17.6%だった。COVID-19 禍で RA 患者のフレイルやサルコペニアが問題となっている中で、看護師が実施すべきことが多くあることがわかった。本調査対象者である看護師は、ほぼ全員が看護師によるリハビリテーション実践を重要と認識していたが、現実には半数以上が実践できていない認識であった。看護リハビリテーション実践の必要性と実態に大きな乖離があり、看護リハビリテーション範囲の明確化とそれをどう実践で波及させるかが重要であることがわかった。

リハビリテーション範囲を明確化するため、RA 患者にどの程度のリハビリテーションを看護実践しているのかについての実態を Web 調査で把握した。そして、必要とする看護実践内容を検討した。内容は、リウマチ体操とそれ以外の運動、自助具の活用、関節保護、手指機能の知識とリハビリテーション、フレイル予防のための運動と栄養、足の変形予防、運動頻度と中止基準、外来でのリハビリテーション、チーム医療としてのリハビリテーションに分類し合計 41 項目を選出し看護リハビリテーションの必要範囲を明確にした。

現在、この必要 41 項目について全国の RA 看護師への無作為抽出 Web 調査を実施している。実態把握とともに、これら 41 項目の詳細プログラムを作成予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 神崎初美, 三浦靖史	4. 巻 2
2. 論文標題 関節リウマチ患者への看護リハビリテーション実施に関する実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本リウマチ看護学会誌	6. 最初と最後の頁 8-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村明子・神崎初美	4. 巻 2
2. 論文標題 リウマチ膠原病患者へのプレコンセプション・ケアに関する実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本リウマチ看護学会誌	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎初美, 金外淑, 大西亜子, 田中由紀, 高橋直美, 大西誠	4. 巻 33(4)
2. 論文標題 リウマチ看護師の「聴く力」を強化する教育介入プログラムの看護実践能力向上への効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床リウマチ	6. 最初と最後の頁 320-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上満代, 神崎初美	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 女性SLE患者の日常生活へのパートナーからのサポート	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎初美, 井上満代	4. 巻 33(3)
2. 論文標題 リウマチ看護師の看護実践能力構造モデルの構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床リウマチ	6. 最初と最後の頁 207-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎初美	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 リウマチ看護の質向上とエビデンスに基づく看護の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本リウマチ看護学会誌	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukuda K, Miura Y, Maeda T, Hayashi S, Kuroda R.	4. 巻 11 (1)
2. 論文標題 Expression profiling of genes in rheumatoid fibroblast-like synoviocytes regulated by tumor necrosis factor-like ligand 1A using cDNA microarray analysis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biomed Rep.	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/br.2019.1216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi S, Fukuda K, Maeda T, Chinzei N, Kihara S, Miura Y, Sakai Y, Hashimoto S, Matsumoto T, Takayama K, Niihara T, Kuroda R.	4. 巻 3 (7)
2. 論文標題 Denosumab Treatment Improved Health-Related Quality of Life in Osteoporosis: A Prospective Cohort Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JBMR Plus	6. 最初と最後の頁 e10191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jbm4.10191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 政井俊磨、渡邊勇氣、三浦靖史	4. 巻 33(1)
2. 論文標題 関節リウマチ患者の上肢機能と口腔内環境の関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本リウマチリハビリテーション研究会誌	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦靖史、佐藤未悠、石田知美、前田俊恒、福田康治、黒田良祐	4. 巻 33(1)
2. 論文標題 リウマチ患者におけるレジリエンスと身体活動・ストレスの関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本リウマチリハビリテーション研究会誌	6. 最初と最後の頁 54-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki M, Kanamori M, Fukuta Y, Kato M, Taniguchi Y, Hiramatsu T, Maruoka N, Kobayashi S, Naito T, Shimada, H, Izumi, K	4. 巻 Special Issue
2. 論文標題 Effects of a Fall-Prevention for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Gerontology	6. 最初と最後の頁 S23-S28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6890/IJGE.201910/SP.0003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎初美、金外淑、松本麻里、元木絵美、三浦靖史、松本美富士、泉キヨ子	4. 巻 30(3)
2. 論文標題 リウマチ看護師の看護実践能力尺度の開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床リウマチ	6. 最初と最後の頁 166-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14961/cra.30.166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神崎初美	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 災害時の関節リウマチ患者に必要な看護支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床リウマチ	6. 最初と最後の頁 284-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14961/cra.30.284	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金 外淑, 松野 俊夫, 村上 正人, 釋 文雄, 丸岡 秀一郎	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 慢性痛のマネジメントに活かす認知行動療法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心身医学	6. 最初と最後の頁 327-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15064/jjpm.58.4_327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 3件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 神崎初美
2. 発表標題 関節リウマチ患者のリハビリに関する尺度の開発～質問項目作成過程～
3. 学会等名 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神崎初美、金外淑、元木絵美、三浦靖史、泉キヨ子、大西亜子、田中由紀、高橋直美、大西誠
2. 発表標題 「聴く力」を育てる「10分間面接シート」活用によるリウマチ(RA)患者の困り事の把握と看護実践効果
3. 学会等名 第34回日本臨床リウマチ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanzaki H, Kim W, Motoki E, Matsumoto Y, Miura Y, Izumi K,
2. 発表標題 Relationship Between RA Nurses Careers and the Self-Report RA Nurse Core Competency Scale Score
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神崎初美
2. 発表標題 「リウマチ看護の質向上とエビデンスに基づく看護実践」の方略
3. 学会等名 第1回日本リウマチ看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神崎初美
2. 発表標題 SDMと関節リウマチに関する看護師アンケート調査の報告
3. 学会等名 第1回日本リウマチ看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神崎初美、金外淑、元木絵美、三浦靖史、泉キヨ子、大西亜子、田中由紀、高橋直美、大西誠
2. 発表標題 「聴く力」を育てる「10分間面接シート」活用によるリウマチ（RA）患者の困り事の把握と看護実践効果
3. 学会等名 第34回日本臨床リウマチ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神崎初美
2. 発表標題 看護師の目指すリウマチケア
3. 学会等名 日本リウマチ財団「リウマチ性疾患におけるトータルマネジメント」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦靖史、山崎郁子、雄鹿賢哉、福田康治、黒田良祐
2. 発表標題 リウマチ患者に対する音楽療法：心理的リラクセーション効果の検討
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦靖史、福田康治、柴沼均、黒田良祐
2. 発表標題 リウマチ用水銀握力計の代替握力計に関する検討
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦靖史
2. 発表標題 チームで臨む関節リウマチ患者の口腔ケア支援
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦靖史、福田康治、黒田良祐
2. 発表標題 心理的リラクゼーション効果の視点から見たリウマチ患者に対する音楽療法の効果
3. 学会等名 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上満代
2. 発表標題 SLE患者のQOLにおける定量的評価の重要性と疾患特異的QOL尺度【日本語版LupusPRO】の有用性
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上満代
2. 発表標題 膠原病とがん 併存疾患をもつ患者の苦悩を考える 膠原病患者への看護の視点から
3. 学会等名 第1回日本リウマチ看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 元木絵美
2. 発表標題 DMARDsを使用している関節リウマチ患者の服薬アドヒアランス
3. 学会等名 第34回日本臨床リウマチ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hatsumi Kanzaki , Woesook Kim , Emi Motoki , Ako Ohnishi , Yuki Tanaka , Makoto Ohnishi
2. 発表標題 RA nurses ' core competency improvement through 10-minute motivational patient interviews, using a script that we developed: a quasi-experimental study
3. 学会等名 APLAR(アジアリウマチ学会)2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kanzaki H, Kim W, Motoki E, Matsumoto Y, Miura Y, Izumi K,
2. 発表標題 Relationship Between RA Nurses Careers and the Self-Report RA Nurse Core Competency Scale Score
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 M. Inoue, K. Shiozawa, H. Kanzaki, K. Makimoto.
2. 発表標題 Differences in the sleep parameters between remission and flare period in a SLE patient: a case report.
3. 学会等名 APLAR(アジアリウマチ学会)2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 神崎初美、西上あゆみ 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 264
3. 書名 災害看護学・国際看護学 放送大学教材	

1. 著者名 神崎初美（分担執筆）、岡美智代編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 226
3. 書名 行動変容をうながす看護（第3部 CASE3がん患者C氏とD氏へのストレス緩和、自己効力感支援）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	泉 キヨ子 (Izumi Kiyoko) (20115207)	帝京科学大学・医療科学部・教授 (33501)	
研究 分担者	三浦 靖史 (Miura Yasushi) (60346244)	神戸大学・保健学研究科・准教授 (14501)	
研究 分担者	井上 満代 (Inoue Mitsuyo) (70803667)	兵庫医科大学・看護学部・准教授 (34519)	
研究 分担者	牧本 清子 (Makimoto Kiyoko) (80262559)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・客員研究員 (34507)	
研究 分担者	元木 絵美 (Motoki Emi) (70382265)	神戸女子大学・看護学部・講師 (34511)	削除：2022年3月7日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 外淑 (Kim Woesook) (90331371)	兵庫県立大学・看護学部・非常勤講師 (24506)	削除：2022年3月7日
研究分担者	松本 美富士 (Matsumoto Yoshifuji) (40080155)	東京医科大学・医学部・客員教授 (32645)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関